

2010.8.21 バレエスタジオ*A i l e* 第2回発表会

～*Dream*～

第3部

Summer Dream ～未来への協奏曲～

作品解説



プロローグ
第1章・情熱の都
第2章・希望の街
第3章・初恋の小路
第4章・追憶の丘
第5章・嵐の谷
第6章・ひまわりの海へ
エピローグ



プロローグ

情熱の、赤。

希望の、オレンジ。

初恋の、ピンク。

追憶の、緑。

嵐の後の光の、黄色。

幕が上がると、そこには5色の個性をまとった少女たちとそれを誘う者たちが、一同に会します。

少女たちが身につけるのは、練習用の真っ白なボンチュチュ。

そう、彼女たちは夢の途中の道を歩いているのです。

自分が憧れる、バレエへの道。

それは自分自身が進みたい道。

「私が踊りたいバレエは、どんなもの？」

そんな少女たちの心の声が聞こえてくるような、儂くそして力強い物語。

まだ、何にも染まっていない、純白。

そこにひとはけの個性の色をふわりとまとい、彼女たちは佇んでいます。

少女たちを誘う者は、ときに風であり、ときに光であり、そしてときに花たち。

それぞれの想いを、運び、夢から現実へと導いてゆくのです。

ここから舞台上に描かれるのは、彼女たちの心象風景。

オムニバスで進む、少女たちの心を描いた物語。

それは、既存のバレエにはない、新しい香りと彩りに包まれています。

表現するのは…「自分自身」。

【第1章】 情熱の都

・花市場

・情熱～憧れのエスメラルダ

どうしても、踊りたい踊りがある。

その踊りを踊ること。

それは、叶えたい夢。

熱くたぎる少女の想いは、憧れの踊りへの想い。

彼女がどうしても踊りたかったもの、それは「エスメラルダ」

第1章、テーマカラーは「赤」。

スペインの香りが漂う都。

花市場。

どこからかアコーディオンの音色が風に乗って聴こえてくる。

目に鮮やかな花々たちが、私を誘うように、揺れている。

軽快なリズム。

手拍子。

いつしか、私はその光景に目を奪われていた。

何かを忘れていた。

いつの間にか、どこかへ置き去りにしてきてしまった。

私の踊りへの夢。

今、はっきりと思い出した。

そうだ、私には踊りたい踊りがあったんだ。

心の片隅にギュッと閉じ込めて、カギをかけていたけれど

もう閉じ込めておく必要なんて、ない。

憧れの踊り。

私の魂が、今、それを踊る。

【第2章】 希望の街

- ・蝶たちの誘い
- ・希望～踊りへの夢

踊るのが好き。
いつも楽しく踊りたい。
ワクワクするようなリズム。
心が躍る。身体が踊る。

バレエに懸ける想いが、今、溢れだす。

第2章、テーマカラーは「オレンジ」

ふんわりと空を舞う蝶々。
空気と戯れるように、軽やかに空をゆく。

あ、可愛い。
子どもを思い出して、懐かしく、そっとそのあとを追ってみた。

そのとき。
胸の中に響いたメロディー。
いつか踊った、あの曲。

これは...くるみ割り人形？
おもちゃの兵隊に、雪の女王、金平糖、そしてクララ。

バレエが描く夢の世界。
私は、そんな柔らかな世界が好きなんだ。

まだ踊ったことのない踊り。
いつか踊った懐かしい踊り。
どれも大切な宝物。

そしてきっと、未来のくるみ割り人形は
まだ誰も知らない素敵な夢の世界。
たくさんの夢と希望にあふれているはず...

【第3章】 初恋の小路

- ・カナリアの歌声に
- ・初恋～ジゼルの想い

好きな人が、います。

その人のことを想うだけで、胸が切なく苦しくなるのです。

でもとても温かく柔らかな気持ちに包まれます。

恋、とはこういうものでしょうか。

...そんな想いでジゼルが恋した相手は身分を隠したアルブレヒト。

真実を知ったジゼルは、狂気のうちにこときれてしまいます。

時として人を死にもおいやる恋の力とは、なんと強大なものなのでしょう。

恋の入口、初恋。

初恋の小路を、少女が歩き始めます。

第3章、テーマカラーは「**ピンク**」。

歌うような、カナリアの声。

まるで鈴の音を響かせたような、優しい音色が耳に届く。

言葉にならない声で、恋を告げているのだろうか。

それとも届かぬ思いの切なさを、歌っているのだろうか。

私は、その声に誘われた。

気がつくと、カナリアの声に囲まれて暗闇から

立ちあがっていた。

ジゼルが抱いた想い。

その恋の気持ちを、踊ってみたい。

きっと今なら、わかると思うから。

そう、きっとカナリアが告げていたのは、あの人への想い。

【第4章】 追憶の丘

・光の妖精

・追憶～あの日の思い出

懐かしく切ない思い出。それはもう過去のこと。
過ぎ去ったあの日は還ってこないけれど、
ここから歩きだす未来は、きっと輝きに満ちている。

「今まで、誰も観たことのないバレエを踊りたい。そして自分の違う一面を出してみたい。」
そう力強く告げた彼女が踊る、自分自身の追憶。

第4章、テーマカラーは「グリーン」

弾ける、光。キラリ、またキラリと弾むような輝きを放つ。

私を誘う光の妖精。
明るい輝きが、やがて鈍い光へと変わってゆく。

どうして...?
明るく楽しい笑顔の隙間に、沈んだ悲しみの色を見せるの？

あの場所へ、もう一度行ってみよう。思い出の、あの場所へ。
光が手招きする。私は、歩みを進める。

思い出の地へ、やってきた。ここから全ては始まったから。温かいイスのあった、この場所から。

思い出すだけで、胸が詰まる。息をするのも、忘れる。

でも思い出にすがっては、生きられない。
一人で歩いて、決めたんだ。
だけど、揺らぐ。戻りたいよ...。おかえりって、言ってくれそうな気がするから。

思い出達が、私に絡みつく。切ない想いを、振りほどく。

自分で決めたことだから。一人で歩いて、決めたから。
私は、自分を信じて進む。
切ない思い出を、胸にしまい込んで。

【第5章】 嵐の谷

- ・光は闇の中に
- ・そして、道は...

心の谷間。深く沈みこんだ感情。抜け出せない迷路のように、不安がつきまとう。
誰しも抱える、苦悩と悲しみ。そしてほんの少しの憤り。
心に吹き荒れる嵐から、抜け出すことはできるのか....。

テーマカラーは闇を表すグレー、そしてその先の光の色「黄色」

雨が、降っている。激しく雨が、降っている。
辺りは、闇。
私には、見えない。光が、見えない。闇が迫る。闇がつきまとう。
右手で力強く振り払っても、闇は私の前に立ちふさがる。
雨は相変わらず、止まない。

微かに見える一筋の光。ああ、あそこへ行きたい。
けれど光のしっぽはスルリと私の手を抜けて、また闇の中へとかき消されてゆく。
掴みたい。掴めない。どこへゆけば、この闇は晴れるの...？
見えない網に捕らえられた白鳥のように、もがき、羽ばたけども、ここから逃れることはできない。
だから、覚悟を決めた。この闇の中で、生きようと。

そして、天（そら）を見上げる。
そうか、降っていたのは私の涙だったのか。光は自分の心の中にあったんだ。
暗闇で見つけた、光射す道。闇があるからこそ、光は輝く。

*

やがて、あたりに一陣の風が吹く。

黄昏の風たちは、少し湿り気を帯びた空気を包みながら、夕暮れの中を進む。
しっとり腕に絡む、ほんの少しだけ熱を帯びた風。
嵐の余韻を残しながら、風が通り過ぎたあとに、少女たちの奏でる未来が、待っている。

風たちはその道標。未来への道は、風たちが知っている....。

【第6章】 ひまわりの海へ

私の夢、私たちの夢。
踊りへの想い。

胸の内に秘めた、祈りにも似た小さな夢のカケラたちは、
情熱の都を抜け、希望の街を通り、初恋の小路を歩み、追憶の丘を登る。
そして、嵐の谷を通り過ぎたあと、どこからともなく吹いてきた黄昏の風たちに誘われるように、
その想いが溢れだす。

そこは、ひまわりの海。
波のようにさざめき立つ、ひまわり。太陽にその顔を向け、凜としたたたずまいを見せる。
風になびくその姿は、まるで金色の海。
何物にも背くことのないような、まっすぐとした潔さ。
強さ。そしてしなやかさ。その姿は、私たちの憧れ。

いつか、成し遂げたい希望。いつか、叶えたい想い。
それは「夢～Dream」

その「夢」に向かって、顔を上げ、進んで行きたい。
太陽に向かう、このひまわりのように。
迷うこともあるけれど、つまづくことだってあるけれど、あきらめない限り、きっと夢は叶うから。

*

エピローグ

花に誘われ、蝶とともに舞う。
カナリアの歌声に乗って、光に導かれ、そして風に連れられてやって来たのは、遙かなる未来。
少女たちの心の音色は、響き合い、静かにそして力強く共鳴する。
奏でられる協奏曲。想いが響く。

真っ白な夢は、いつしか鮮やかな色彩へと変わり
心に秘めていた温かな想いを身にまとい、それぞれの心が、今、ひとつになる。
やがて、あたりは紅に染まり、
ひそやかに暮れゆく夏の夢。

情熱の花、ひまわりに託した祈りは、天へ....。

この小冊子の内容は

『「バレエスタジオA i l e」主宰：阿部純子のブログ～バレエを思考する～』

から引用し、加筆・修正をしたものです。

ブログ URL : <http://balletstudioaile.blog86.fc2.com/>

「バレエスタジオ Aile」オフィシャルサイトはこちらから

<http://www.balletstudio-aile.com/>

